



会 長
根 上 眞 一



幹 事
山 崎 恭 夫

■ R I 会長 カルロ・ラビッツア (イタリア)

“ROTARY 2000 : ACT WITH CONSISTENCY, CREDIBILITY, CONTINUITY”

ロータリー 2000 : 活動は一堅実、信望、持続

■ ガバナー 勝山國太郎 (静岡東)

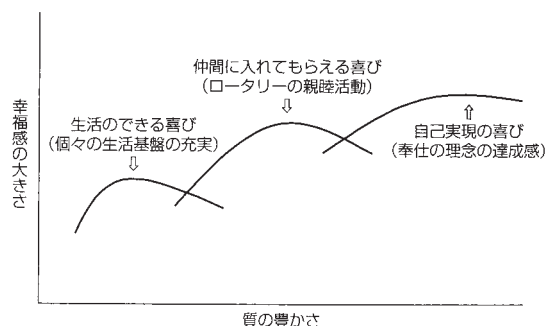
■ 分区代理 小島 久雄 (長泉)

■ 会 長 方 針

おみやげのあるロータリーを

期待と希望に満ちた21世紀にあと549日とせまったこの時期に、伝統ある御殿場ロータリークラブの会長に就任致しますことを誠に光栄に思い、また身の引き締まる思いでございます。振り返ってみますと、農業の時代から、科学文明の発展と、工業生産の時代が変わったこの20世紀は、『量の豊かさの時代』でもありました。私どもはこの物質文明を享受し豊かさを謳歌してきたのでございますが、一方にこの物質文明は自然破壊を引き起こし、また数多くの社会的問題も提起してきたわけでございます。ここで今世紀の終わりにあたって、この『量の豊かさ』の時代への反省から、21世紀は物質文明の中にも、より自然環境を大事にし、健康と心の豊かさを合わせ求める『質の豊かさの時代』にと社会の変化を期待する声が高まってきております。私どもロータリークラブも、この転換期にあって時代の変化に合った『質の豊かさをビジョンに持ったクラブの運営』を心掛けていく必要があるのではなかろうか、と思うわけでございます。

では、この『質の豊かさ』というものを、どのように具体的に考えていったらよいのだろうか、という疑問をマズローという心理学者の説を基にして考えてみたいと思います。マズローは『人間の幸せ』について次のような説を唱えました。——人間の幸福感を尺度で表すならば、『一番初めに来る幸福感は、生活を維持できる』ことである。しかるに『より高い次元の幸福感は、仲間になれる』ということである。そして、さらにその上に



ある『最も高い幸福感は、自己実現』にある——、とっております。図に書いてみますと；
明らかに『自己実現の達成こそがより質の高い豊かさの実現』と言えます。

このことを我々のロータリークラブの活動に当てはめて考えてみましょう。ロータリアン個々は、すでに十分な生活基盤をもった方々であり、第一段階の生活による幸福のレベルは達成されていることと思います。その方々がロータリークラブという団体の中で親睦の和、すなわち（マズローの言葉を借りれば）その上の段階の仲間作り、を通じて結ばれているのですから、次は共通の理念である『奉仕の理念に向かって努力する事こそが、ロータリアンの自己実現』であり、より質の高い幸福感を実現できるのではないかとと思われるのでございます。

『強い親睦の上に立ち、充実した活動と、しっかりした規律の上に運営されるロータリークラブ』という原点にもう一度戻ってみようではないか、そのためには我々は『一つ一つの活動を奉仕の理念に照らし合わせて十分に吟味し、心を豊かにする質の高いプログラムを提供する事により、会員だれもが、ロータリーの例会にきてためになった、活動に参加して楽しかった、役をやって良かった、との思い（即ち、おみやげ）を常に持って帰れる』ようにしたい、そんな思いをこめて今年度の会長方針を；

『おみやげのあるロータリーを』

THE ROTARY EXPERIENCE AS A GIFT OF LASTING VALUE

と致しました。

ロータリーの活動は、クラブ内のそれぞれの委員長の率いる小委員会活動より成り立っております。当然、委員会の活動は委員長の下に協議され、運営されていくわけですが、委員会の今年度の計画策定と運営に当たりましては、それぞれの活動の一つ一つ再検討し、いかにより質の高い活動ができるか、各委員会活動からの『おみやげ』は何があるか、を検討し実行して頂きたいと思っております。職場のトップマネジメントとして、日々激しい競争社会の中を生き抜いていられる会員の皆様にとって、クラブの例会や活動が、ひと時の憩いの場であり、何かが得られる『心のオアシス』であらん事を切に願ってやみません。

小生は24年前に入会致しました。入会後の何年間かは、仕事の関係上ホームクラブでの出席も少なく随分とクラブにもご迷惑をお掛け致しました。その頃、今は故人となられたある先輩のロータリアンに、『君は今はクラブの足を引っ張っているのは確かだ、だが僕は君を信頼しているから、君ができるようになったら、その時にクラブに恩返しをしたまえ』と諭されたことを記憶しております。このような私をここまで暖かい友情をもって支えてくださった皆様に感謝すると同時に、少しでもそれらの恩義に報いるため、精一杯課せられた役目を、勤めさせて頂きたいと思う所存でございます。何卒よろしくお願い致します。